

地域社会と共に歩み

地域住民との良好な関係の構築

各種活動で地域に貢献します

大林道路は、良き企業市民として社会文化の発展に寄与していきます。

●中国支店

東広島バイパス瀬野南地区舗装工事

東広島バイパス安全協議会を代表して安芸区民まつりに参加しました。工事体験コーナーや建設機械に触れることができるちびっこ教習所コーナー、工法紹介コーナーを設け、地域のみなさまとふれあうことができました。



現場代理人
西村 浩一



監理技術者
山本 紀彦

●北信越支店

水明橋・小川・石原舗装

現場付近のバス停が積雪のために利用者の乗降や歩行者の通行が困難な状況になっていました。そのため、皆さんが安心して利用できるようバス停周辺の除雪を行いました。



工事責任者
坂上 剛



●九州支店

東九州道(鹿屋~曾於) 荒谷地区舗装工事

曾於市で開催されている弥五郎どん祭りの実行委員会より、花車を移動させる際の誘導を依頼されました。普段よりご協力いただいている地元住民の方々のため、当社の現場担当者総出で対応しました。祭りの後、実行委員会より感謝状をいただきました。



現場責任者
福田 弘明



●大阪支店

清滝生駒道路 清滝地区舗装工事

浪速国道工事事務所が行う現場見学会において情報化施工の仕組みやコンクリート舗装の機械について施工現場にて説明しました。普段では体験できないことですので、大変興味を持ってもらえました。



現場責任者
友滝 康平



●四国支店

佐川管内 舗装修繕工事

この地域には8月8日に88クリーンウォークという環境美化活動があります。今年は日頃からご協力いただいている地元の方々と共に日高村役場から小村神社までの約2kmの道路を清掃しました。



現場責任者
石田 博稔



●中部支店

平成24年度 23号豊橋東BP 東細谷西舗装工事

工事現場近隣の細谷小学校の3・4年生の児童を現場見学会に招き、工事で使用している重機に乗る体験や排水性舗装の排水機能を体験してもらいました。児童からの質問も多くあり、子どもたちも道路に関心があることがわかりました。後日見学会に参加した児童から感謝のこもった手紙をもらいました。



現場責任者
伊藤 肇



●本店

赤い羽根共同募金に協力

全国の事務所に設置してある飲料自販機の売上に応じて、赤い羽根募金に協力しています。今年度は15万円の寄付をすることができました。



●北海道支店

一般国道40号 稚内市外 抜海舗装工事

豊富バイパス北インター入口から更喜苫内地区に至る国道40号線の14km区間に捨てられているゴミを他工事施工業者と協力して回収し、沿線の美化に努めました。この活動は地元新聞にも取り上げられました。



現場責任者
高江 正之



●東北支店

茨川地区舗装工事

この地域は積雪が多く、朝夕は路面凍結により滑りやすくなり歩行者が転倒する危険性がありました。現場内の歩道が通学路となっていたため除雪・融雪を行うことにより、通学時の学童の安全に寄与できたと思います。



現場責任者
廣長 義紀



●関東支店

平成24年度 五霞地区 県道付替工事

現場近くにある五霞第一幼稚園・川妻保育園の園児たちを現場に招き、建設機械の乗車体験や舗装面でのお絵かき体験などをしてもらいました。園児たちにとっては楽しい思い出となったことと思います。



現場責任者
石井 義昌



常磐自動車道 谷和原管理事務所 舗装補修工事

つくばみらい市と守谷市内の小学生と保護者の方を対象として行われた「夏休みハイウェイ親子見学会」に舗装用の建設機械や工事用車両を展示し、見学者の方々に説明をしました。



現場責任者
大畑 秀之



地球環境への配慮

地球環境と調和した企業経営に取り組んでいます。

地球環境に対し、「大林道路はどのように貢献できるか」を常に考え、実践しています。

環境方針

私たちは地球や地域を汚染から守るため、環境経営に取り組みます

- ① 法律や倫理に対して誠実な対応を行い、社会から信頼される会社を目指します。
- ② 「もったいない」気持ちを大切に、資源の有効利用を目指します。
- ③ 当社の環境技術を広め、住みたい街づくりに貢献します。

環境目標

●2013年度環境目標

「原単位当たりエネルギー使用量を前年度比1%以上削減する」

●目標に対する結果

わずかですが目標である前年度比1%削減は未達となりました。2014年度は設備の改善や職員が高い環境意識を持ち続けることで少しでもエネルギー削減ができるよう工夫していきます。

監視測定結果

部門名	内訳(原油換算値)	2012年度	2013年度	構成比率	前年度比	寄与率
オフィス部門	エネルギー使用量合計	851.8 Kℓ	826Kℓ	3.1%	-	3.0%
	床面積1㎡あたりのエネルギー使用量	27.5ℓ /㎡	27.03ℓ /㎡	-	98.3%	
製造部門	エネルギー使用量合計	20,714.3 Kℓ	21,800.7Kℓ	81.1%	-	79.7%
	アスファルト合材 製造1tあたりのエネルギー使用量	13.02ℓ /t	12.8ℓ /t	-	98.3%	
	再生骨材 製造1tあたりのエネルギー使用量	2.84ℓ /t	2.97ℓ /t	-	104.6%	
部門計		25,626.1 Kℓ	26,881.5Kℓ	100%	-	99.2%

エコキャップ運動

ペットボトルを捨てる時はキャップとボトルを分別しています。いくつかの事業場では、エコキャップ運動に参加して、職員の環境意識や社会貢献意識の向上に努めています。



既設管を生かした管路更生「光硬化工法」の普及活動

㈱日本下水道協会が主催する「下水道展13東京」が2013年7月30日～8月2日の4日間、東京ビッグサイトで開催されました。下水道事業に関係する企業や団体など329団体が出展し最新の技術や研究動向が発表され、4日間の総入場者数は88,645人に上りました。

大林道路では2003年に特許を取得したCO₂削減に大きく効果のある管更生工法、光硬化工法(シームレスシステム工法)を広く知っていただくため、子会社の東洋テックス㈱と共に、光硬化工法協会の一員として毎年下水道展へ出展・参加しています。そこで技術説明、施工説明のために地上でデモ施工を行い、環境にやさしい管更生の普及に努めています。



デモ施工



工法イメージ

中国支店 広島アスファルト混合所 中間処理施設の完成(平成26年2月28日)

新中間処理施設は、周辺地域への影響をできるだけ少なくすることを考慮し、騒音・粉じんを抑制するために搬入廃材の荷卸場所および破碎施設を全て建屋で囲いました。

また、1時間あたり100tのアスファルト塊およびコンクリート塊を破碎できる能力を備え、操業時間を極力短縮することが可能になりました。

一昨年にオープンしたアスファルトプラントと共に、広島市を中心とした地域の発展と循環型社会への貢献を目指します。



中間処理施設ではこのように廃材を再資源化しています

現場からの発生材



中間処理施設で破碎



再生材として再利用



メガソーラー発電施設工事への取り組み

近年の地球温暖化現象への対策として、クリーンエネルギーへの関心が高まっています。特に2011年3月の東日本大震災以降、メガソーラー発電施設工事が増えています。大林道路はメガソーラー発電の足下を支える仕事もしています。コンクリート基礎、杭基礎など、現場にあわせた設計施工が可能です。

平成25年12月に九州積水工業様で完成した、ソーラー発電設備についてご紹介します。場所は佐賀県神埼市にある九州積水様敷地内にある調整池です。敷地面積17,500㎡に11,844枚の太陽光パネルを設置しました。発電出力1.36MW、一般家庭400世帯分の電気を発電します。完成した施設を眺めることが出来るウッドデッキに、今現在の発電量がわかる電光掲示板を設置しました。



環境保全活動の効果的推進

環境保全活動の効果的推進のためISO14001の規格に沿った取り組みをそれぞれの事業場で決定し、そのPDCAサイクルを繰り返すことで環境に負荷をかけない事業活動を行っています。



除染作業

福島第一原子力発電所の事故により放射線に汚染された環境回復のための除染作業を、放射線対策ガイドラインに則って実施しています。



高圧吸引洗浄車での除染作業